

IIAS NEWSLETTER

International Institute for Advanced Studies

April 2007

53

 財団法人
国際高等研究所

<http://www.iias.or.jp>

index

- | | |
|-------|--|
| 報 告 | 研究活動報告(2月1日~3月31日) |
| | 第59回理事会・第53回評議員会を開催(3月13日) |
| | 2006年度第3回企画委員会を開催(2月16日~17日) |
| | 2006年度第2回フェロー懇談会を開催(2月17日) |
| | 第10回「コンピューテーショナル・マテリアルズ・デザイン
(CMD)」ワークショップを開催(3月6日~10日) |
| 紹 介 | 2007年度新規研究プロジェクト(9課題) |
| 報 告 | 京都銀行協賛による公開講演会を開催(2月24日) |
| 参加者募集 | 高等研公開事業3件を開催 |
| | ①「雅松庵」茶会(5月19日) |
| | ②公開講演会「恭仁京と保良京」(6月2日) |
| | ③第2回合同見学会(5月23日) |

- | | |
|-----|------------------------|
| 受 賞 | 杉山 正明企画委員の日本学士院賞受賞 |
| | 新庄 輝也上級研究員の第48回本多記念賞受賞 |

- IIASカレンダー ●研究活動(4月1日~6月30日)
- 公開講演会
- お 知 ら せ ●事務局の動き

研究活動報告(2月1日～3月31日)

●研究プロジェクト

研究タイトル	開催日	研究代表者	参加者数
共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築・産学連携の知的財産法モデル(合同)	2月2日(金)	北川善太郎	4
分化全能性—普遍性と特異性	2月3日(土)	原田 宏	4
中国民法典フォーラム 共同研究の法モデル・産学連携の知的財産法モデル(合同)	2月3日(土)	北川善太郎	33
共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築・産学連携の知的財産法モデル(合同)	2月9日(金)	北川善太郎	4
第3回企画委員会	2月16日(金)～17日(土)	—	22
第2回フェロー懇談会	2月17日(土)	—	22
電子系の新しい機能	2月17日(土)	新庄 輝也	9
ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義	2月22日(木)～23日(金)	津田 一郎	17
共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築・産学連携の知的財産法モデル(合同)	2月23日(金)	北川善太郎	4
多元的世界観の共存とその条件	2月23日(金)～24日(土)	石川 文康	11
共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築・産学連携の知的財産法モデル(合同)	3月2日(金)	北川善太郎	4
第4回コピーマートフォーラム 共同研究の法モデル・産学連携の知的財産法モデル(合同)	3月3日(土)	北川善太郎	18
開発途上国と日本人長期政策アドバイザー(フォローアップ研究)	3月3日(土)	橋本日出男	6
第10回コンピューショナル・マテリアルズ・デザイン・ワークショップ	3月6日(火)～10日(土)	赤井 久純	79
電子系の新しい機能	3月9日(金)～10日(土)	新庄 輝也	39
共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築・産学連携の知的財産法モデル(合同)	3月9日(金)	北川善太郎	4
スキルの科学(フォローアップ研究)	3月10日(土)	岩田 一明	6
第5回コピーマートフォーラム 共同研究の法モデル・産学連携の知的財産法モデル(合同)	3月14日(水)	北川善太郎	15
高度科学技術に伴う広域・学際的諸問題-女性研究者と科学の未来-	3月16日(金)～17日(土)	伊藤 厚子	16
共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築・産学連携の知的財産法モデル(合同)	3月16日(金)	北川善太郎	4
スキルと組織	3月17日(土)	榎木 哲夫	7
学習の生物学	3月17日(土)	星 元紀	9
19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究	3月17日(土)～18日(日)	吉田 忠	8
コア・エグゼクティブと幹部公務員制度の研究	3月22日(木)～23日(金)	村松 岐夫	7
認識と運動における主体性の数理脳科学	3月23日(金)～24日(土)	沢田 康次	10
共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築・産学連携の知的財産法モデル(合同)	3月23日(金)	北川善太郎	4
産学連携の知的財産法モデル	3月30日(金)	北川善太郎	4

●公開講演会

講演テーマ	開催日	講師	参加者数
植物の生存戦略～植物の生き方を探り、人間生活に生かす～	2月24日(土)	鎌田 博	78

第59回理事会・第53回評議員会を開催(3月13日)

3月13日に第59回理事会・第53回評議員会を開催。2007年度事業計画・収支予算、理事・評議員の選任と所長人事について審議し、原案どおり議決しました。

(1) 2007年度事業計画

研究プロジェクト18課題、フォローアップ研究4課題、招へいフェロー新規2名、特別委員11名、フォーラム4件、一般公開事業5件等の実施を計画しています。

(2) 2007年度収支予算

事業活動収入合計143,100千円(対前年予算比△6,200千円)、事業活動支出合計209,900千円(同△20,050千円)、収支差額は運用財産取崩しにより補てんされます。

(3) 理事・評議員の選任

理事の新任は、坂本邦夫前神戸大学理事・事務局長。評議員の新任は、川口清史立命館総長。任期は前任者の残任期間である2008年3月31日までです。

また、木津町の木津川市への合併により河井規子前町長は評議員を退任されました。

(4) 所長人事

現所長の金森順次郎氏が再任されました。

任期は2007年4月1日から2009年3月31日までです。



2006年度第3回企画委員会を開催(2月16日～17日)

2006年度第3回企画委員会が、企画委員、上級研究員、特別委員、フェロー等22名の参加を得て2007年2月16日～17日に開催されました。委員会では、金森順次郎所長から2006年度の研究事業の進捗状況及び2007年度の研究事業計画の概要について、北川善太郎副所長から高等研学術出版案内について報告があり意見交換が行われました。続いて、志水隆一上級研究員による「『文化財保全技術』に関する先導的研究開発委員会立ち上げに至るまで」、季衛東企画委員による「中国的秩序のコード解読」についての話題提供があり、これらについて活発な質疑応答が行われました。

2006年度第2回フェロー懇談会を開催(2月17日)

2006年度第2回フェロー懇談会が、5名のフェローの参加を得て2月17日に開催されました。懇談会では、所長・副所長等と研究活動全般や研究所の運営などについて意見交換が行われました。



第10回「コンピューテーショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD)」ワークショップを開催(3月6日～10日)

本ワークショップは、高等研及び大阪大学の共催により3月6日～10日に開催されました。このワークショップは、コンピューテーショナル・マテリアルズ・デザインの可能性を展望するとともに、その基本となる最先端の計算手法を学び、実際にマテリアルズ・デザインを体験することにより、物質科学の新しいパラダイムに対応できる基礎能力をつけることを目的としています。

基礎コースに33名、専門コースに14名、計47名が参加しました。ワークショップ終了後、実行委員長の赤井久純大阪大学大学院理学研究科教授から受講生全員に修了証書が授与されました。ワークショップでは、高等研での講義に加え、日本原子力研究機構関西光科学研究所の施設を利用した実習が行われました。

2007年度新規研究プロジェクト(9課題)

① 女性研究者と科学技術の未来(3年計画)

研究代表者:伊藤 厚子(フェロー・特別委員/お茶の水女子大学名誉教授)

今後の科学技術の発展にとって、女性の活躍が不可欠であり、女性の潜在力を活かすことによって、学術・科学技術の発展が加速されると共に、新しい展開が期待される。どのような環境があれば

女性の研究者・技術者が育つか、女性の科学者が多数輩出する環境作りにはどのような努力が必要か、「科学する心」をもつ女性の層を厚くするにはどのような努力が必要かなどを議論し、具体的な方策を提示することを目指します。

② 細胞履歴に基づく植物の形態形成(3年計画)

研究代表者:鎌田 博(企画委員/筑波大学大学院生命環境科学研究科教授・同遺伝子実験センター長)

高等生物における形態形成においては、個々の細胞がそれまでに辿ってきた発生過程(履歴)や細胞同士の位置情報が極めて重要であることが明らかにされています。(このような情報をここでは細胞履歴と呼ぶこととします。)細胞壁で囲まれた状態で煉瓦積みのような形式で形態形成を行う高等植物では、細胞履歴は極めて重要な因子と考えられているものの、細胞履歴に基づいてどのような機構を介して形態形成を引き起こすかについてはほとんど解明されていません。そのことから、最新の研究成果や先駆的な考え方について議論し、関連分野の研究の今後の飛躍的な発展、特に植物形態形成を理解するための新しい考え方や概念の構築を目指します。

③スンマとシステム～知のあり方～(3年計画)

研究代表者:亀本 洋(企画委員/京都大学大学院法学研究科教授)

西洋の知らないし学のあり方を思想的にみると、スンマ(summa)とシステム(system)という2種類に分けられます。このスンマは今日でも、判例法主義に立つコモン・ロー諸国の法実務において、用いられている実用的な知的な方法です。

しかし、スンマによる知の体系化は、実験と観察を基礎に数学的定式化によって知的探求の成果を表現する自然科学の興隆とともに、学問の体系化の方法として、いくつかの法則または普遍命題からの演繹の体系化によるものであることが有力となり、非自然科学も、やがてそれに倣うようになりました。このため哲学、社会学、法学、経済学、政治学等、主として人文社会科学の諸分野を、学問知のあり方に関するこの二つの方法の観点から、教科書の編成方式なども取り上げつつ検討します。

④歴史と環境(3年計画)

研究代表者:杉山 正明(企画委員/京都大学大学院文学研究科教授)

地球環境問題に取り組むための基本的な知識・法則・枠組は、まだ全くわかっていないのが現状です。この環境研究は歴史研究との視点に立ち、既存の歴史的研究の蓄積と連携しつつ、自然と人間の相互作用という観点から総合的にアプローチしていくことが求められます。このことから歴史学を中心とする文系研究者と、地球環境学にかかわる理系の研究者との組み合わせにより、歴史と現在をつらぬく視野で真正面から相互に照合・検証し、さまざまな人間の営みを丁寧に見直しつつ、我々はどうのように自然と付きあってゆけばよいのか、その手掛りを探ります。

⑤次世代情報サーチに関する総合的研究(3年計画)

研究代表者:田中 克己(企画委員/京都大学大学院情報学研究科教授)

「次世代のサーチエンジンを社会を支える情報基盤ととらえて、これに関する技術や社会制度・法制度などはどうあるべきか」を、情報技術の立場のみならず、知財管理、ビジネスモデル、サーチ情報の信頼性、個人情報によるサーチのカスタマイズの是非、サーチエンジン運営者の法的責任、メタデータと知的財産権、キーワード・バイ

と商標権、画像サーチと著作権、キャッシュと著作権、サーチエンジンに関するビジネスモデル特許、教育におけるサーチエンジン活用の諸問題、サーチエンジンと広告のあり方、学術情報とサーチエンジンなどについて様々な観点から検討を行い提言します。

⑥生物進化の持続性と転移(3年計画)

研究代表者:津田 一郎(特別委員/北海道大学電子科学研究所教授)

生物進化の問題解決のため、①よいモデル実験系の創出と数理モデルによる合理的な解釈、②進化における分岐の仕組み、③非平衡開放系と微弱非平衡近閉鎖系における生命動態の違い、④進化における神経系・脳の出現の意味、⑤進化の持続性の条件、⑥進化の可能な転移と人工進化、⑦Brain-Machine Interfaceによる次世代ヒトの進化などの課題の議論を通じて、生命進化における持続性と進化形態の新たな相への転移を研究します。

⑦すきまの組織化(3年計画)

研究代表者:鳥海 光弘(特別委員/東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

複雑性一特殊性一隙間について研究して来た結果、複雑性や多様性の起源が多く、隙間という存在に大きく関連し、それがさまざまな分野で直接には避けてきたものの総体、とくに対象のもつ中間性、階層性、非定常性、及び履歴感受性などの関与したところの融合的研究が必須であることが結論づけられた。それら4つの性質の交差するダイナミクスは、このプロジェクトで取り上げる隙間の組織化ということからです。隙間の組織化について、理学、工学、医学、社会科学及び人文科学から融合的に研究します。

⑧絶滅と再生の生物学(3年計画)

研究代表者:長谷川 真理子(特別委員/総合研究大学院大学先導科学研究科教授)

人間という1種の生物の活動が、地球史の中では一瞬と言えるほど短い期間に、人間以外の大量の種を絶滅に追いやっています。また、最近の世界規模での社会の変動によって、多くの人間の言語が絶滅し、また絶滅の危機に瀕しています。これらの最近に起こっている絶滅は、過去の地球規模で見たときの絶滅とは何が違うのか、そこからの再生はあり得るのか、再生を果たすには何をすべきなのか、絶滅の持つ意味を再考します。

⑨高度計測技術の発展と埋没(2年計画)

研究代表者:本河 光博(フェロー・特別委員/東北大学名誉教授/科学技術振興機構先端計測技術推進室プログラムオフィサー)

技術開発研究が優れているにもかかわらず埋没している部分を掘り起こし、埋もれていた高度な技術を蘇生させて活用すること、我が国の技術として既に長年培われてきたものが、採算に合わないという理由で放棄されたにもかかわらずまだまだ実用価値の高いものも多数あることを踏まえ、放棄された背景や今後の利用価値などを探り、これらの埋もれた技術開発研究を、単に技術的見地からだけではなく、経済的、政治的見地から社会科学の一環として見直します。

京都銀行協賛による公開講演会を開催(2月24日)

2月24日(土)に京都銀行の協賛による2006年度第4回目の公開講演会を開催しました。鎌田博 筑波大学遺伝子実験センター教授による講演「植物の生存戦略～植物の生き方を探り、人間生活に活かす～」に参加された78名の方々が聴講されるとともに熱心な質疑応答が行われました。

身近な素材を活用されながら、植物が持っているユニークな生存戦略を私たちが上手に活用する方法について分かりやすい事例をもとに紹介されました。



参加者募集

高等研公開事業3件を開催

(高等研ホームページをご参照ください)

①「雅松庵」茶会(5月19日)

茶道裏千家及び(株)福寿園のご協力を得て、第7回目を迎える恒例の高等研茶室「雅松庵」の茶会を開催します。

茶席は、茶道裏千家前家元 千玄室氏からご寄贈いただいた伝統的な様式のお茶室で気軽にお茶に親しんでいただくという趣向です。車いすの方もご参加いただけるよう立礼席を用意しています。多くの方々のご来場をお待ちしています。

- ・開催日:2007年5月19日(土)/受付時間:10時30分～12時、13時～15時
 - ・担当:本間 宗寿 裏千家正教授
 - ・場所:国際高等研究所茶室「雅松庵」
 - ・参加費:無料 ・定員:150名
- (往復はがきによる申込制・応募者が多数の場合、先着順とします。)



②公開講演会「恭仁京(くにきょう)と保良京(ほらきょう)」(6月2日)

本事業は、京都銀行のご協賛をいただき実施します。



- ・演題:「恭仁京と保良京」
- ・講師:金田 章裕 京都大学大学院文学研究科教授
- ・開催日:2007年6月2日(土)14時～16時
- ・場所:高等研レクチャーホール
- ・対象:高校生以上
- ・聴講:無料

●講演要旨:

平城京の時代、何回か平城京の北に都が建設された。平城京からみて木津川の北岸ないし、東岸がその地であった。この地はもともと、北陸道、東山道などの宮道が通過する地でもあった。聖武天皇は、東国巡幸の後、山背国の相楽郡加茂町に建設した恭仁京に移った。木津川の北岸に宮域が検出され、南岸に左京と右京が別個に推定されている。

天平12年(740)に恭仁京の造営が始まって一年余を経た天平14年、今度は近江国甲賀郡に紫香楽宮の建設を始めた。3年後再び平城京に帰還した。

聖武天皇の娘、考謙天皇が、養老2年(718)に重祚した後、退位して上皇となった後、天宝宝字3年(759)から保良宮・京の建設を開始した。これも短命であり、天宝宝字6年5月までのことであったが、大津市関津遺跡の幅18mもの道路跡はこれにかかわる可能性が高い。

いずれも国際高等研究所の対岸から北にかけての一带である。

③第2回合同見学会(5月23日)

昨年ご好評をいただきました近隣の住民の方々を対象にした施設見学会を、(財)国際高等研究所(IIAS)、(財)地球環境産業技術研究機構(RITE)、オムロン(株)京阪奈イノベーションセンタ(OMRON)の3機関合同で開催します。

- ・開催日:2007年5月23日(水) ・開催時間:13時30分～17時
- ・参加費:無料(事前申込不要)

●研究活動(4月1日～6月30日)

開催予定日	研究プロジェクトのタイトル	研究代表者
4月4日(水)	多面的世界観の共存とその条件	石川 文康
4月6日(金)	共同研究の法モデル	北川善太郎
4月13日(金)	学習の生物学(フォローアップ研究)	星 元紀
4月17日(火)	第6回コピーマートフォーラム 共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築(合同)	北川善太郎
4月17日(火)	文化財保全技術	志水 隆一
4月21日(土)	フォーラム「多階層連結コンピューティング」	三間 囿興
4月23日(月)～27日(金)	"Seminar on Language, Evolution, and the Brain"	王 士元
6月4日(月)	電子系の新しい機能(幹事会)	新庄 輝也
6月22日(金)～24日(日)	すきまの組織化	鳥海 光弘
6月22日(金)～23日(土)	グローバリゼーションと市民社会	仁科 一彦
6月29日(金)～30日(土)	電子系の新しい機能	新庄 輝也

●理事会・評議員会

開催予定日	講演テーマ	講師
5月19日(土)	高等研「雅松庵」茶会	本間 宗寿
5月23日(水)	合同見学会 (IIAS・RITE・OMRON)	—
6月2日(土)	公開講演会「恭仁京と保良京」	金田 章裕

受賞

杉山 正明企画委員の日本学士院賞受賞

杉山 正明企画委員の日本学士院賞受賞が決定しました。同賞は、日本学士院が優れた研究業績を表彰するもので、受賞式は6月に行われる予定です。心よりご祝辞を申し上げます。

受賞

新庄 輝也上級研究員の第48回本多記念賞受賞

新庄 輝也上級研究員に、金属科学の世界的な開拓者である本多光太郎にちなんだ第48回本多記念賞(財団法人本多記念会)の受賞が決定しました。贈呈式は5月11日に学生会館で行われます。心よりご祝辞を申し上げます。

お知らせ

●副所長の再任

金森順次郎所長の再任に併せて、3名の副所長—岡田益吉副所長、北川善太郎副所長及び中川久定副所長—が4月1日付で再任されました。任期は所長同様、2007年4月1日から2009年3月31日までです。

●事務局長の交代

第59回理事会・第53回評議員会の理事選任により、3年間に亘り高等研の発展に貢献いただきました森重和子理事・事務局長が3月31日付で退任されました。後任として、4月1日付で坂本邦夫前神戸大学理事・事務局長が就任いたしました。

●事務局員の着任

4月1日付で竹島康志氏が研究支援部副部長として着任いたしました。

新戦力を加え、陣容も新たに新年度を迎えました。

皆様には、引き続きご支援・ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

編集・発行者

財団法人 国際高等研究所

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地
 TEL: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4005
 E-mail: editor@iias.or.jp
 http://www.iias.or.jp